

No.110

公民館だより

平成12年5月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

愛宕山（西山）とお大師さん

公民館長 酒田 治

大師山（天王山）とお大師さんについては、公民館だより、一〇九号（一月号）で一応終了としたが、前回までは東山（天王山）一帯に広がる石仏について記載したものであって、今回は、四月二十一日にお大師さんの祭りで、まだ一度も出合っていない西山（愛宕山）の石仏と、思わぬ大雪に見舞われた、東山の石仏達に変ったこととはなかっただろうかと心配で、再度やって来た。

天候は午後より雨との予報が出ているが巡拝には最適な日和である。国民宿舎に通じる踏切りを過ぎ、辺りをキョロ、キョロと眺め乍ら案内急な上りの道を、体験実習館、安寿荘へ。

行く手に小さいが良く目立つ真赤な幟が、ハタ、ハタと風に靡いている。

近くになるにつれ、『奉納 南無大師遍照金剛』と赤地に白の文字がくつきりと浮かび上がる。

先ず道標に従い東山へ、石仏の安否を尋ねて一巡り、参道は綺麗に清掃され、各々の石仏達は、手編みの新しい涎掛けを付けてもら

い、お粧しおまかをしている。

途中、天王山のお宮に参拝して、由良城跡の案内板が立つ所へ出る。次は、いよいよ西山へ。西山へは、国民宿舎の駐車場と、テニスコートの間の細い道を右に取って入って行く。

当日は、入口に前記の幟が立っているで良く分る。

道に添い五十米程入った所に西山最初の石仏が、訪れた人々を優しく迎えてくれる。

巡拝の頂上までの参道は、蛇行している上り坂であるが、思ったより良好で、東山と同じパターンで道のすぐ上、左右に祀まつられている。

東山と違っていると言え、東山の石仏は一体のものが多いのに比べ、西山の石仏は何故か分らないが二体以上が多い。

参道を登って行くと、頂上附近にかけてツツジの群生（三葉ツツジ）が今を盛りと咲き乱れ、仄かな花の香り。吹き上げて来る涼しい風が、巡拝の疲れを心地よく癒

やしてくれる。

下りに向かうと少しきつい勾配が続く、途中石仏の横に、蒲江村：市？門と記された一体が祀られている。

舞鶴市の蒲江の方なんだろうか？

東山・西山全体の石仏それぞれが、近隣の信心深い方々より献納されたものなのか？

と思いきい、松食い虫で道を塞いでいる枯木の下を潜り抜け、如意寺の墓地を通り過ぎると、西山（愛宕山）の石仏も終りに近づくと、最後の石仏の前を出ると、視界が広がり、畑の中の細道が左、右に延びている、左に進めば安寿荘と新川横の細道を抜け本通りに、右に進めば入口に出る。

やつと参り終えた安堵感も一入、石仏達を後に帰路に着く。

今にも雨が落ちて来そうな雲行き、日本海も薄暗く、十六階建てのマンションがいやに白く浮き立って見える。

平成十二年度

由良地区公民館役員名簿

主事 飯澤 登志朗

森田 耕二

山下 浩二・小田原 昭子
中西 伸子

(体育部)部長 有本 敬

副部長 柴田 克己

副部長 川崎 智子

編田 一則・浜本 喜彦

岩本 和子・中西 隆光

浜崎 利雄・竹田 成美

千坂 幸雄・中西 一就

有本 仁美・藤本 守

栢田 千恵美・山下 正貴

山下 まさ代・大森 京子

山田 美恵子

小室 文雄・岸田 剛

玉垣 泰子

生涯学習講演会

(婦人会共催) 二月二十五日

公民館だより発行(年三回)

五月・九月・一月

由良歴史年表編纂事業 周年

子ども地域活動促進事業

(子供会連絡協議会共催) 六月中

【体育部】

由良岳登山(第三十四回)

四月二十九日

第十二回宮津市地区対抗駅伝競走大会

六月四日

女子ファミリーバドミントン交流会

六月十日

団体ソフトボール大会

六月十一日

四部対抗球技大会

(野球・ソフトボール) 八月十三日

四部対抗バレーボール大会

十月十五日

宮津市市民駅伝競走

十一月三日

グラウンドゴルフ大会

(中高年対象) 未定

【運営審議会委員】

(順不同敬称略)

由良小学校校長 水谷 洋子

由良自治連合会長

浜野路自治会長 大森 秀朗

脇自治会長 山田 寿一

宮本自治会長 熊田 良雄

港自治会長 山田 昭夫

下石浦自治会長 山下一郎

上石浦自治会長 野村 孝行

市議会議員・前公民館長

山下 清一

学識経験者 四方 寿朗

由良幼・小学校PTA会長

岡田 武

栗田小学校PTA会長

酒本 茂樹

由良婦人会長 小田原 昭子

由良老友会長 升田 重一

子供会連絡協議会会長

【公民館役員】

公民館長 酒田 治

主事 飯澤 登志朗

【分館長】

脇分館長 佐原 善弘

宮本分館長 竹田 茂

浜野路分館長 中西 英貴

港分館長 山田 博義

下石浦分館長 新宮 鶴雄

上石浦分館長 岸田 秀樹

【幹事】

(文化部)部長 中西 衛

副部長 川崎 清

上良 宏之・山本 良和

由利 昭弘・中西 一雄

岸田 国彦・岡田 たつ子

大畑 忠夫・岸田 幸夫

平成十二年度事業計画

【文化部】

盆踊り大会 八月十四日

文化祭(婦人会協賛) 十一月三日

人権学習会 十二月十日

四部対抗区民囲碁大会

自治学級 二月四日
二月十一日

生涯学習講演会

(婦人会共催) 二月二十五日

公民館だより発行(年三回)

五月・九月・一月

由良歴史年表編纂事業 周年

子ども地域活動促進事業

(子供会連絡協議会共催) 六月中

【体育部】

由良岳登山(第三十四回)

四月二十九日

第十二回宮津市地区対抗駅伝競走大会

六月四日

女子ファミリーバドミントン交流会

六月十日

団体ソフトボール大会

六月十一日

四部対抗球技大会

(野球・ソフトボール) 八月十三日

四部対抗バレーボール大会

十月十五日

宮津市市民駅伝競走

十一月三日

グラウンドゴルフ大会

(中高年対象) 未定

行事報告

◎二月六日

四部対抗囲碁大会

囲碁愛好家の高年齢化と減少していくなかで、今年も大会を開催しました。

一つの勝負が優勝に繋がるので対戦者も真剣、突然の大声で失着を残念がる人、会心の笑みを浮かべ盤面を見つめる人等、今年の大会も終始和やかな雰囲気を漂わせ一日が終わりました。

優勝 第二部

個人成績一位は佐原善弘さん

主事 飯澤 登志朗

山下清一氏から

宮津市水洗化総合計画の概要について資料により報告がありました。その他に宮津市の施策について、市の予算、自動車道、大手川改修、企業誘致等の説明がありました。

下水道整備には自治連合会を中心に各関係団体から早期着工に向けて検討が加えられています。現在の市当局の検討結果としては、経済性からは流域下水道に接続することが有利とされていますが、下流側の整備に時間を要することから単独処理区とする。

整備手法として、特定環境保全公共下水道事業とし、海水浴客を中心とした観光地であり、排水量の影響が大きく、自然環境の保全を図る。とされています。

大森秀朗氏から

由良自治連合会が直面している

問題点の各々について説明がありました。

たらどうか。

各自治会単位で抱える問題を由良全体で見るとどうなのか、例えば脇金比羅さんの参道の土砂崩れ

● 下水道を早期に考えてほしい。少子化について復式学級や合併問題が考えられる。若者が定着できる地になりたい。

や小浜の砂浜の問題、石浦地区の河川の問題等各自治会ではなく全体で処理しなければならない点が多

● 下水道について個人負担が気になるが下水道は必要、さらに推進してほしい。

数多くある。少子高齢化が進むなか、農業後継者の問題、介護保険を受けられない人をどうするのか、

● 今日の出席者は高年齢の人が多い、もっと若い人の意見を聞きたい。

さらに消防団員の確保や、自治会長

● 農業について、他地区は農家組合が自治会と別に独立している。どちらが良いか分からないが農家の責任ある考え方が必要ではないか。

の任期の問題等幅広く提案がありました。

● 社会教育について、二〇〇〇三年から学校完全週五日制になる、子供育成が問われる。

引き続き質疑に入りましたがその一部を紹介します。

● デイサービスセンターの建築により、老人いこいの家を取り壊され会場場所が無い。

● 耕地が荒れている。農業後継者難、過疎化が進む原因。

● 山椒大夫考ひとり芝居は地域をアピールした、温泉も出た三十三

● 企業が産業廃棄物を焼却処分している、公害発生だ。

● 三十三の高齢者が元気に生活しているような地域の活性化が必要。

● 街づくりについて、由良地区の方向性が必要では。

● 由良にも「道の駅」が出来ないか、奈具海岸の保全が必要では

地区民参加の総合計画を作成し

◎二月十三日

自治学級

(講師)

市議会議員 山下清一氏

自治連会長 大森秀朗氏

ないか、松が枯れ、ゴミが散乱している。

その他にも貴重なご意見がたくさんありましたが講師の山下さん大森さんから取り組みについて回答や協力要請があり閉会としました。

次回には次代を担う若い方々の参加をお願いします。

◎二月二十日

生涯学習講座

山椒太夫伝説と史実について
講師 丹後郷土資料館

技師 伊藤 太先生

当日は一時間という短い時間設定であり内容の豊富さからみても無理があったのではと反省していますが伊藤先生の熱意のある講話で時間不足を多少なりともカバーしていただきました。

内容の一部を紹介します。

山椒太夫を扱ったものとして代表的なものを四点あげられる
能「婆相天」

説経節「さんせう大夫」

義大夫 歌舞伎

森鷗外「山椒大夫」

「婆相天」は約六〇〇年前に上演されたと言われているが一度途絶えたものを復活させたもので歴史上一番古い物語である。

上越市の開演には一五〇〇人が集まり盛会であったとのこと(公演については公民館だより一〇九号で山田暢子さんが「山椒大夫伝説を「佐渡の旅」に求めて」で述べておられます)

能「婆相天」の資料として上演詞章により詳しく解説がありました。

上演詞章を紙面で紹介出来ればと思いますが長文であり今回は割愛いたします。

◎四月二十九日

由良岳登山

今年で三十四回を数える由良岳登山は前日までの雨もあがり快晴の朝を迎えましたが登山道の泥々

した状況が頭を過ります。

昨年と同じ状況でしたが天気予報は日中気温上昇を告げていましたので時間を三十分遅らせて実施しました。

今回も舞鶴・綾部・福知山と遠来の参加者を迎えての開催でしたが、やはり途中道悪の箇所が何か所かあり滑らないよう注意を払いながらの登山でした。

山頂は無風、快晴で空気が澄み渡り、展望は満点、こぶしの花が満開で我々を迎えてくれました。例年は花が散っているのに今年は冬の厳しい寒さからか咲くのが遅れたのでしょうか。

西峰からは天の橋立がくつきり見えています。

さらに今回は読売テレビの取材があり重さ十八キロのテレビ用カメラを持つての登山同行がありました。ほとんど空身で登る私たちでも大変な山道をカメラを担いでの登山、職業とはいえ大変な重労働に感じします。テレビ放映は当初午後六時台

と聞いていましたが、実際には放映されたのは午後十一時台でしたが視聴された方もあったのではと思います。
最後になりましたが、この登山道の整備にご苦勞になった観光協会を始め関係者の方々に心からお礼を申し上げます。



子供会活動に思う

栗田中学校長 三田 剛 資

この度の人事異動により伊根中学校から栗田中学校に勤務を命じられました。昭和六二年四月から平成三年三月まで本校に勤務しておりましたので、地域の皆様にはご存じいただいている方もおられることと思います。よろしくお願ひいたします。

さて、先般、由良の里センターで子供会の総会があり、出席をさせていただきました。各地区での子供会行事、夏の見回りなどすべてボランティアで行っていただき、多くの皆様が子どももの健全育成にご尽力いただいていますことに心より敬意を表するものがあります。

この度の人事異動により伊根中学校から栗田中学校に勤務を命じられました。昭和六二年四月から平成三年三月まで本校に勤務しておりましたので、地域の皆様にはご存じいただいている方もおられることと思います。よろしくお願ひいたします。

学校においても地区の行事には積極的に参加するように、そして最上級生はリーダーとして力を発揮するように指導をしています。しかし、現実には、中学生になれば子供会行事には出なくてもよいのだというこれまでの間違った伝統が続いているのだと思います。また、親御さんの意識の中にも、「地区行事は、学校行事でないし、子どももいやだと言っているし。」といった考えのもとに押し出しが弱くなっていることもあると思います。

教育の始まりは家庭からという言葉が昨今ようやく浸透してつとあります。親が地域行事に出ないという事は、特別なことがない限りないと思います。ぜひ親御さんは『押し出し』を敢行していただきたいと思ひます。多感な年齢の頃だから子どもも余分な軋轢を起こさないようにではなく、当たり前前することは当たり前前に行動できるよう各家庭におかれましても実践していただければと思ひます。地域の祭礼などの練習は、出るのが当たり前といった伝統があります。その中では、多くの先輩から地域でのつながりの大切さを学びます。子供会行事においても同様であると思ひます。

可能な限り、行事の企画・立案の際には、リーダー(最高学年の生徒)を参加させながら、子ども達ができることは、子ども達に任せることも必要であると思ひます。すべてをお膳立てして、「さあ、来てください。」でなく子どもを育てるような取組もあるのではないのでしょうか。積極的に参加し、健全に育ってくれることを願ひしています。



「子どもたちに豊かな体験を」

由良小学校長 水谷洋子

子どもたちの体験不足が指摘されるようになって、久しくなりま

す。「子どもの自然体験、生活体験などに関する調査・研究」の結果

によると、自然体験について「一度も経験したことがない」と回答した項目は、比率の高い順に、次のようでした。

- ① 高さ千メートル以上の山に登ったことがない。
 - ② 野外でテントに寝たことがない。
 - ③ 木の実、薬草やきのこ等を採って食べたことがない。
 - ④ 日の出や日の入りを見たことがない。
 - ⑤ 魚釣りをしたことがない。
 - ⑥ 自分の身長より高い木に登ったことがない。
- また、日常生活における体験に

ついて、全然していなかったり、しないことが多い項目の高い順は、次のような結果でした。

- ① 乗りものでお年寄りに席を譲ったことがない。
 - ② 食料品など買い物にいったことがない。
 - ③ 家の掃除を手伝ったことがない。
 - ④ 包丁やナイフで果物の皮をむいたことがない。
 - ⑤ 食事の準備や食器の後片付けを手伝ったことがない。
 - ⑥ 布団の上げ下ろしやベッドの整理を自分でしたことがない。
- これは、小学校2、4、6年、中学校1、2年生一万二千名を対象としたものです。
- 前回（昭和五十九年）の調査より今回の平成七年の方が、体験し

ていない比率が、さらに高くなっています。

由良地区の児童は、これほどの体験不足ではないと思いますが、傾向としては、似たような状況が見られるのではないのでしょうか。

また、これらの生活体験や自然体験の豊かな子どもほど、「友達が悪いことをしていたら止めさせる。」とか、「バスや電車で席をゆずる。」といった道徳観や正義感が身についているといった結果も出ています。

これは、豊かな体験を積んでいる子どもは、感受性も豊かで、思いやりも育っているという表れではないかと思われま

す。つまり、体験をすることで、心の喜怒哀楽の体験や、他人から、ほめられたり感謝されたりするなどの充実感も体験しているからではないかと考えられます。

今、学校でも、頭だけで理解するのではなく、できるだけ、体験学習を通して学ばせようと活動や課題解決的な学習を多く取り入れ

た取組をしています。

家庭や地域でも、生活の中の体験や自然体験の機会をできるだけ数多く増やし、継続的に取り組ませていただきたいと思います。



ご挨拶

由良婦人会長 小田原 昭子

今年度はからずも、私が婦人会長という大役を引き受ける事となりました。このような大役をうけるような器でないことは自分自身がいちばんよく知っています。地区の皆様のお協力、御指導を頂

きながら微力ではありますがこの一年間勤めさせて戴きたく思っております。二十一世紀を目前にして、若い人たちに気がかりな事があらわれています。学校崩壊、家庭や校内での暴力、さまざまな非行や犯罪の増加等。その原因はいろいろですが、青少年は大人の社会を映す鏡であると思います。人は、親や先生、先輩や上司から折あるごとに教えを受けて成長し、一人前の大人になれば、今度は自分が親として先輩として、子供を育て後輩の指導にあたります。もし、人間

として大事なことを教えられずに育ち、先輩となって人を導こうとする姿が増えたとしたら、社会は混乱の悪循環に陥ってしまいます。お互い親として先輩として、子や後輩に伝える何かをしつかりと持っている分、それを自分なりの方法で若者に伝えようとしているかどうか。常に考えて暮らしていくのか二十世紀最後の年に大人のつとめとして、強く求められているのではないのでしょうか。

そして、現代はいろいろな事が変化する「大変な時代」だといわれます。リストラ、終身雇用の崩壊、高齢化社会など、とくに中高年をめぐる環境は厳しさを増しています。戦後の日本は、長く経済、産業第一で男性は社会のため会社のために身を粉にして働き、女性は家庭を守ると言った時代が続き、

その結果暮らしは豊かになったものの、心の豊かさは後回しになりました。そしてバブルが崩壊したら価値観の転換で「自分のため」「家族のため」「地域のため」を考えて身の回りの暮らしを大切にしていって日々の生活を組み立てていき、気の持ちよう、体の動かしようでこれまでもとはひと味違う愉しみをとりいれていきたいなと思います。

「時代を越えて変わらぬ価値あるもの」と「時代の変化」と共に「変えていく必要のあるもの」をしつかり見極める力をお互い身につけたいものです。

個々の婦人会員がお互いに協力することによって無限の力が生まれてくると思います。その力が十分発揮できるような環境作りにお手伝いをしていきたいと思っていますので、時間の許す限り婦人



会活動に参加して頂き、視野を広めていただければと考えております。婦人会員の皆様、地区の皆様の御協力どうかよろしくお願いいたします。

できることから、大人から

由良子供会連絡協議会会長 森 田 耕 二

私の嫌いな言葉に「キレる」「ムカつく」があります。カタカナで表現するといかにも先のとがった鋭いナイフのようなイメージさえ憶えます。

非行・少年犯罪・学級崩壊など、昨今の青少年をめぐる問題は、質・量ともかつてない深刻な状況に陥っており、連日のように新聞紙上をにぎわし、それはエスカレートする一方です。又、青少年の健やかな成長は誰もが願うことであると同時に、人類の永遠のテーマのひとつであると考えます。ゆえに、青少年育成運動は、その成果が見えにくいでしょう。

そんな中、『大人が変われば子どもも変わる』をスローガンとした運動が社団法人青少年育成国民会議により総務庁・警察庁などの関係機関・団体の後援を受け、二年

前から全国一斉に展開されています。

『青少年の健全な成長に大人がどれほど重要な役割を果たすかを広く認識してもらい、自らの生き方を見直し、実際の行動へ結びつけてもらう。』ことを目的として次のごく身近な三つの取り組みから始まります。

一つ目は、自分自身を省みて、子どもの手本となるよう努めることです。日常において、社会生活の基本的なルールやマナーを無視していませんか？最も身近なことでは、交通ルール。反省する点はありませんか？

二つ目は、子どもたちと正面から向き合い、対話を深めること。子どもたちの気持ちをくみ取り、黄色のシグナルを少しでも早く見つけるために、対話をしています

か？対話を通して善悪の判断力、生命や自然・相手を思いやる心を育んでください。何でも話せる関係づくりこそ、親子の絆を深める第一歩だと思えます。

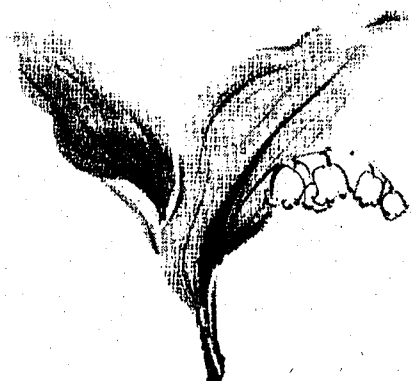
三つ目は、社会環境を見直し、その改善に立ち上がることです。好ましくない社会環境については積極的に発言・行動し、子ども達が生き生きと安心して過ごせるような地域環境を整備してください。これについては、個人ではなかなか難しいことですが、近所・自治会・子供会など横のつながりを強化して取り組んでいきたいと思えます。

以上、『大人が変われば子どもも変わる運動』について紹介しましたが、重要なのは一つ目の取り組みのように『できることから、大人から』。ここからすべてが始まると思うのです。

『大人が変われば子どもも変わる』かえせば『大人が変わらなければ子どもは変わらない』ということ。先のとがったナイフの

ような、あの言葉が子どもたちの口から発せられないことを願って……

今年度、会長をお受けいたしました。私にどこまで重責が担えるか不安が残りますが、有意義な一年になりますよう皆様のご指導ご協力をお願いします。



自衛消防隊 操法訓練に参加して

脇 佐 原 善 弘

平成十二年四月十六日宮津市の春季連合訓練が由良小学校グラウンドで行われました。

そのなかで、由良脇と石浦の自衛消防隊も「消火栓操法」で参加することになりました。

そして脇、石浦の自治会長は自衛消防隊長として操法に加わることになりましたが、十六日当日は脇地区が例年行っている薬師さんの例祭と重なったため自治会長が訓練に参加出来ず私が代理として隊長を務めることになりました。連合訓練に向けて一週間程前から由良消防分団の指導のもとに消火栓操法の特訓が始められました。

脇、石浦の隊員も初参加であり役割分担を相談のうえで、指揮者、消火栓開閉、ホース、伝令、筒先と係りを決めました。

さくらの花も満開の春とはいえ、

夜風が肌身に寒さを感じるなかで夜の七時半から九時頃まで、連夜練習が続けられました。

最初のうちは皆さん動作がぎこちなく指令や伝令の言葉も間違ったり忘れだりの四苦八苦のスタートでした。

指導される消防団員から、一挙一動に減り張りをつけるように、声を大きく等注意指導の連発でした。

また、脇、石浦の隊員も持ち場立ち場同志で相談しながら三日目四日目と練習を重ねるうち少しずつ様になるようになってきました。細かい動作で注意されることが多くありました。

それでも、あちこちから〇〇良し〇〇良し……と大きな声が聞こえ練習に熱を帯びてきました。

そして最後の練習日、連夜の特

訓で隊員皆さまお疲れ気味かと案じられたが何のその、当夜も消防分団の方々の見守るなか一連の消火栓操法の特訓が夜遅くまでくり返し続けられました。

当日の朝九時のサイレンを合図に訓練が開始され、宮本、浜野路、港の各自衛消防隊は指定された場所ので放水訓練を実施、その後由良地区自衛消防隊は副指揮者（大森自治連合会長）の指揮によりヘルメット、白エプロンのユニホーム姿も凛々しく小学校校門前に整列しました。

宮津市各地区の消防団員の整列もすでに完了しています。そしてグラウンドまでの隊列行進が開始されました。

閲団隊形に入り統裁、主来賓の閲団を受け、続いて各消防団による各種訓練が実施です。

小隊訓練く操法訓練と続き、流石に意気の合った統率のある訓練実施でした。

続いて自治消防隊の消火栓操法を実施する旨のアナウンスにいよ

いよ我々の出番、本日最後の訓練種目です。

脇、石浦自衛消防隊長の消火栓操法開始の号令により操法スタート、来賓三〇余名、消防団員約一八〇名、由良自衛消防隊員約一四〇名、計三五〇名余の視線が我々に注がれ、一連の操法のなか皆んなの一挙一動が真剣そのものでした。

動き良し、声良し、立派に出来ているぞ、私もそう感じていました。

そして無事操法が終了する。皆の顔がやり遂げたという思いで笑みがこぼれる。

本当にご苦労様でした。この訓練が地域の防火意識の高揚に役立つことを願ってやみません。



囲碁雑感

熊田良雄

数千年の歴史のある囲碁は、堯、舜、禹などの、中国古代の聖天子が考案したとの伝承があり、君子のたしなみとされてきた。

二千五百年前の孔子も無為徒食をいまして、「碁というものがあ
るではないか、何もしないでゴロ
ゴロしているよりも、碁でも打っ
ている方がまだしもである」と論
語で述べている。このことは碁が
当時すでに流行し、孔子もその価
値を認めていたのだろうと推察さ
れる。

しかしながら碁には勝負がつき
ものであり、碁を打っている人間
は必ずしも聖人君子ばかりではな
いから、いろいろなと事件も生じ、
悶着の種はつきない。

碁は本来自分も最善をつくすが、
相手の立場もよく考えるゲームで
あり、他人に迷惑や不快感を与え

る打ち方は、たとえ高段者でも許
されるべきことではない。お互い
に碁を楽しむという基本を忘れず、
勝っても負けてもしこりを後に残
さないことが大事である。

昭和三十七年にテレビの放映が
開始され、碁は多くのファンに親
しまれるようになった。

近年、世界アマ囲碁選手権大会
の参加国が年々増え、隆盛になっ
ていることが象徴するように、海
外での囲碁の広がりは急ピッチで
ある。今や囲碁は日本やアジアの
域を越え世界のゲームとなってい
る。

碁の魅力は何かと問われれば私
は次のように答えたい。

- 一、ハンディ戦であること、自
分が好きなだけ置石が出来る。
- 二、相反する考えをしなければ
ならない。

隅や辺が大事、自分の地所を囲っ
てしっかり守れ。一方では囲わず
中央に出なさい。

三、記憶のゲームであり、形の
ゲームである。

定石や詰め碁、手筋などの勉強
のことである。

碁は黒石と白石を交互に打つ簡
単なゲームですが、その入り口は
大きく奥は果てしない広がりをもっ
ています。

一步一步の努力が成果をあげた
時の喜びは、はかり知れませんが

由良囲碁同好会は皆さまの加入
を心からお待ちしておりますので
是非一度ご参加下さいませようお
願い申し上げます。

以上



人権標語

いっしょにあそぼ みんなであそぼ

由良小 岡本早紀

気づこうよ 友のだしてるSOS

由良小 田中めぐみ

ホームステイを受けて

大森 経子

四月半ばの或る日、上宮津の粉川さんのお宅へアメリカの学生さんが二人ホームステイで来られました。(日本語の勉強が目的のグループアー十五名中)

何時ものように夕方お花の稽古に川崎さん宅へ。そこで今晚七時半頃に外人さんが二人来られるので、ミニ華展を開いて歓迎してあげようということになり、机を並べて準備開始!

様々な花態の花が机の上に。ミニ華展会場がほぼ完成、と云っても残り二、三人が活ける最中。そこへ「こんばんは」と大きな声が出て粉川さんの家族と同伴で来られました。

若いピチピチとした体格の良いお嬢さんと、一人は少し背の低い細目の十六才のお嬢さん。感じ良く笑顔で挨拶。

展示してあるお花を見た後貴女方も活けてみませんか?とカタツコトツ混じりの英語?で話しかけ手振り身振りの会話でどうにか通じ二人の学生さんも挑戦することに。先生が熱心にご指導され活け上がる。一度自分達で活け直してみたら、とジェスチャーをするとOKのサイン!即一生懸命活け直しにかかる。

見事活け上がったので私達もパチパチと拍手で声援。すると二人も拍手で応える。何とも云えない明るい雰囲気皆ホッと一息。カメラを出してパチパチ嬉しそうな顔。一寸小休止。折角の機会だから二人分の振袖があるから着せてあげようという話になり、着付教室に早変わり。学生さん達も思い掛けない着物の着付けに恥ずかしそうに、又嬉しそうに顔見合わせ

て笑ったり、鏡に映る姿に見入ったり本当に会話こそ少なかったが、嬉しさが顔ににじみ出ていました。着付けが済んだらお互いにパチパチ正面姿、横姿、斜め姿と満足そうにパチパチパチリ!床の間の前に座ったりお花の横に並んだり笑みを満面に浮かべた顔!顔!顔!私達もつられて嬉しくなり最後に全員で記念撮影をしました。その後玄關まで出てお見送りをしました。二時間余りの時間でしたが、短いような長いような楽しいひとときでした。昼間はマイクロバスで市内見学と宮津高校訪問。翌日は傘松、伊根方面の観光等スケジュールが一杯だったようです。

二人の趣味は違っていたようですが、日本の興味は、華道、茶道、武道、料理と一致していたようです。由良へ来られた前日上宮津でお茶席も体験されたようでした。ホームステイ受け入れ側の粉川さんがとても世話好きな方なので凄く喜んで帰国されたことでしょう。社会は大きく一変して各国からホー

ムステイの受け入れ先を探しておられるように聞いています。僅か二時間程の交流でしたが、初めての体験に私も俄に交流社会の一員として活躍しているような錯覚に陥っています。二十一世紀に向かってどんどん変貌していくこの社会。若い世代に期待して住み良い社会を望みつっ……。

終



今年も登れた由良ヶ岳

中西 八重子

昨年に続き今年も職場の人たちに呼びかけたところ、中高年男女

十数人が集まり、帰省した我が家の娘二人も加え、一斉登山のグループより一足先に出発しました。

国民宿舎から一気の上りがかなりきつくて、周りを見渡す余裕もなく第一休憩地点を目指す。炭焼きをしていたという広場まで約三分。お茶でのどを潤す。ピンクのイカリ草を発見。イチリン草やシウジョウバマもここに。歓迎の声はホオジロだとか。

少し上ると、うっそうと茂る杉林に入る。周りの植生も全く変わってくる。ワラビ、ゼンマイなどあるもどれが食べられるものかわからず。

先頭が休んでくれるのを期待しながら、地をほうようにして苦しい息づかいで黙々と登る。(後で聞

けば、先頭は後ろから追い立てられ必死だったと。)

右手にシダの群生が見えるとあと少しで第二休憩地点の一杯水。(今年シダがずいぶん小さい。)

水はほんのチョロチョロしか流れておらず、がっかり。

そこから先は本当の胸突き八丁。急勾配で後ろに引っ張られそうになる。満を持していた若者組が先頭に。(それまでは、久しぶりの登山で体力が心配だったとか。)

尾根から東の峰まで最後の上りが、ゆるそうに見えて結構厳しい。息も絶え絶えでスキの中を抜けると、三六〇度の展望が開ける。しんどさが吹っ飛ばす瞬間。これが嬉しくて山に登るのかも。

頂上で飲むビールの味がまた格別。重いビールを背負って上がってくれた先頭さんにカンパーイ!

(もちろん空き缶もしっかりと彼がお持ち帰り)

この頃には、一斉登山のトップグループが次々に頂上へ。エールを交わし、西の峰に。なだらかなハイキングコース。いつも満開のスミレが今年はまだ

つぼみ。きつと雪の下に長く閉じこめられていたのでしょう。

橋立の松並木をバックに記念写真を撮り、下山。下りになって初めて新緑やツツジのきれいなことに気付く。ツツジのトンネルをくぐり、一息に降りる。国民宿舎前で、記念のハシカチをもらってゴールです。

今年も元気で登れたことを喜び、また来年も!と約束をして解散しました。いつの日か孫の手

を引いて(引かれて?) 由良ヶ岳に登る日を夢見る私です。



旅は気儘に

丹後由良ターミナルセンター

吉田 あい子

駅待合室の、テーブルと椅子は、白木の暖かみのある大切なものです。

そこに書かれる落書きは、独り言であつたり思い出の一言であつたり、うっ憤ばらしであつたり、とうとう落書きは、テーブルや柱いっぱいになり、テーブルは大工さんに、けずってもらいました。

結果は、また白い所にと堂々巡りとなり、思案の末ポスターの裏不要になったカレンダーの利用で、今では沢山の財産が出来ました。

今回、公民館の依頼を受けて、待合室をご利用された多くの方々の、旅のメッセージの一部を紹介させていただきます。

一、丹後由良、人情ありて、泊り宿。K&M

二、この静かな由良荘に宿泊して、旅の疲れがとれました。この地

の益々の発展を心に念じて帰途につきます。

滋賀県 森島信二郎他四名

三、特に観光スポットはないらしいと聞いてきたが、海を眺めてボートでできたので幸せ。寒かったけど、安寿もこの海で頑張ったのね...と思いつつ、屋敷跡は分からずじまい、今回はのんびりできて満足。

四、埼玉から来ました。安寿の里もみじ公園は、すごく遠くて疲れました。帰りはやさしいご夫婦に駅まで送ってもらいました。ありがとうございました。地酒は旨い！

五、旅行会社を辞めて旅に出て九日目、これから鳥取に向かいます。追伸・由良の方々、本当にご親切にして頂き、ありがとうございました。これからも、旅

人の心を癒やして下さい。まっかわ。

六、初めて由良にきました。昨日

食べたカニは大変おいしかった。電車を調べておかなかつたので、一時間と少し暇な時間が出来てしまいました。ここは思った以上に田舎で、イイ感じですよ。でも旅館の夜は少し暇だった。日本海の荒波は、東宝映画の始まりを思わせて寒いけど、奈良に住んでいる私にとっては、新鮮でした。今度夏にこよう。

七、生まれてはじめて丹後の地に降りた。ヨットの帆を型どった駅舎。温かいコーヒーをおねだりして、素晴らしい思い出をつくりました。時は流れて止まらないが、とてもいい時間の流れを味わっています。おじいさん、おばあさんの二人旅です。西国三十三ヶ所巡りの途中です。今から松尾寺に行きます。ありがとう。ありがとう。

八、西舞鶴発のタンゴディスカバリーの車掌さん！ご親切にあり

がとうございました。おじいちゃん、の古里にまた一つ、楽しい思い出が出来ました。

『まだ高一やけど人生が長く感じる。いろんな事が多過ぎて、誰かボクの人生を変えて。皆は自分で変えろというけど、もつとそばに居てくれる人がほしい。友達になって。本当の自分を探せない十六才』

!!若いこと素晴らしいヨ!!と応援してあげたいです。



関を吹く風

中西夏江

上石浦に「関」という地名がある。

「明治十九年七月(枚数九十六)田畑宅地切繪全圖 加佐郡上石浦村」の一部をずっと以前に見せて頂いたことがある。

関は「關」の旧漢字で記されている。場所は、もみじ公園の一部を除いて南へ八百メートル程の田・畑・宅地をふくむ一帯が「字關ノ地」である。宅地のほぼ中央を流れる馳出川はせだしがわも関で、国道一七八号線の下を潜って由良川へ注いでいる。

関とは、「塞(せ)く」連用形から①さえぎりとめるもの。②水をせきとめるところ→せき(堰)③関所。④関銭(せきせん)の略。⑤最上位の相撲取。⑥囲碁で一つの形。など…。また他に、岐阜県南部の市や、三重県北部の町→鈴

鹿関。更に姓氏の「関」という一字がもつ意味は多々ある。

上石浦の関は、③の関所だろう。——とは、文化財委員で歴史に造詣深い小谷一郎氏の説である。(以下、平成元年七月発行の公民館だより・氏の文中より抜粋)

——山椒大夫が商用のために、由良へ入るには、まず、その入口である関で、関料としての石代を納めなければなりません。た。今も石浦に関という小字が残っており、当時、其処で関料が徴収されていたことをうかがわせます。

関所は、古代六四六年(大化二)に軍事目的に制度化され、中世になると交通路、交通施設の建設、修理料など徴集の名目で、新たに関所を設けた。南北朝内乱以後乱

設。近世、幕府・諸藩が治安維持のため、交通の要地に設置、幕府直轄の関所は全国五十余か所に及んだ。(特に江戸防衛のため厳重を極めた入鉄砲出女いりてつぽうでんなは有名)一八六八年(明治一)全面的に廃止。

「字關ノ地」は広い。上述の馳出川の上流には、「渡り戸」という地名もあって何となくゆかしい。両岸にそよぐ草や小花は清流をひとさわ美しく飾った。

昔は、この川の水力を利用して車を回し、機会を動かして米などを搗く装置の、所謂水車があり、川に沿う氏神の豊かな緑樹と並んでその水車小屋の風景は、まことに簡素、爽快であった。

村人達の大切な生活用水の川は子供達にとつては、小蟹をとったり、笹舟を浮かべたりする楽しい遊び場でもあった。

羽織袴で祭事に臨んだ村の長老達、襷がけで家事労働の一切をひと手に受けて懸命だった女性達、木登り、凧あげ、かくれんぼに夢

中だった腕白少年達、なわとびや羽根つき、アリ地獄探しなどに興じた少女達、そう、村のみんなの広場であった氏神(中路神社)は、この「關ノ地」の骨格をなす中心だったのである。

星霜は移り、人は変わったがここに残る「関」の地名は、いつまでも残るに違いない。

今、「関」のもみじ公園は、格好の駐車場で、短時間の下車と写真撮影の広場である。

二十一世紀には、もう少し「道草」の出来る由良の「道の駅」になれば——と私達グループで話し合っている。ささやかな地域文化と風景を大切にする広場を夢見ているのだ。

先人達の大切な賜の「関」の地にいま五月の風が吹き渡っている。私達も時には一つの風になろう。ゆつくりと素直な風に——。

(岸田六右衛門氏にご教示頂きました。有難く御礼申し上げます)

由良に住んで四十年思い出すままに(五) 由良温泉由良郷土史新宮涼庭顕彰碑 と矢田梧郎氏

四方 寿朗

「新宮涼庭名は碩、驅豎齊或は鬼国山人と号し、徳川中期に最も傑出した儒医であります。天明七年三月十三日丹後の由良に生れ……」

これは矢田梧郎氏作、由良神社境内の新宮涼庭顕彰碑の傍らに建つ涼庭略伝の冒頭である。昭和三十七年十月九日、その除幕式に私も参列した。おぼろげな記憶を頼りに当時の様子を書くことにする。

これより二年ばかり前、当時の公民館長中西林兵衛氏が来訪「新宮涼庭の顕彰碑を建てる会をつくるから是非」とのこと、松原寺に当時の由良のお歴々約二十名の方が集まって顕彰会が結成された。その場で医者であるということだけ、由良のことなど何も分からない私が会長、矢田氏が事務局長に任命された。

ここで矢田氏について、昭和四十三年ミネルバ書房発行の「新宮涼庭伝」に著者の山本四郎先生は次のように書いておられる。「矢田氏については筆者もあまり知らない。一度だけ同氏の経歴を伺ったが真偽の程は分からない。矢田氏は、『自分は足利氏の直系で、東大の古典学科を中退、第一次大戦勃発と共に船会社を始め、ヨーロッパに行つた時、大使館よりスパイを頼まれ、ドイツの温泉などによく行つた。その縁で第二次大戦のときもドイツで暗躍、たまに内地へ帰ると憲兵につけられ、遂には陸軍大臣の証明書を見せざるを得なかつた」と話された。戦後は夫人の郷里由良に居住、丹後の歴史を調査している間に、幕末の名医涼庭が丹後由良の出身でありなが

ら郷里の人がほとんどその事績を知らない、ということを知つてこれを遺憾とし、顕彰会を組織して……」とある。

矢田氏はもともと顕彰会から自力で新宮涼庭伝を発刊しようと資料を集めるなど、努力を続けておられたが実現せず、やむなく資料を山本先生に提供された。以後は由良郷土誌の編纂を目指して、西舞鶴図書館をはじめ、各地の図書館へ資料を求めて東奔西走、七十歳を過ぎて自転車で東京まで行かれたのは、新聞にも報道された有名な話。また由良の古老から広く聞き取り調査に努め、昭和三十六年頃、遂に全五部、四八四字詰め原稿用紙一四五〇余枚の「由良郷土誌」を完成、由良公民館へ寄付された。当時新聞にも大きく掲載され、現在も公民館に大切に保管されている。次にせめてその目次を記して氏の御労作を讃え、感謝の意を表すことにする。

由良郷土誌 矢田梧郎
第一部 その歴史と自然

- (1) 由良の里
 - (2) 領司領主の更迭
 - (3) 由良六区のおゆみ
 - (4) 由良の人口 戸数
 - (5) 由良村勢(合併直前の)
 - (6) 神秘の山 丹後不二
 - (7) 大雲川 附治水事業の今昔
 - (8) 風土と気候
 - (9) 動植物の生態
 - (10) 天変地変
- 第二部 村の経済
- (1) 由良と農業
 - (2) 養蚕業への回顧
 - (3) 国有林と民有林
 - (4) 水産業と水産物
 - (5) 由良川の鮎あじ及鮭の人工孵化
 - (6) 特産魚「いさざ」と養鰻事業
 - (7) 工業、塩業、石材、ガラス、醸造等
 - (8) 商業
- 第三部 由良の生活、風俗
- (1) 家族制度
 - (2) 村民の衣食住、飢饉の場合と食生活の制限
 - (3) 燈火の歴史
 - (4) 公衆衛生と医療

- (5)方言 (6)習俗(7)年中行事
- (8)墓地 (9)米価今昔のあゆみ
- (10)古今の通貨 (11)金融
- (12)由良湊と千石船
- (13)川船とプロペラ船
- (14)道路 (15)鉄道 (16)通信
- 第四部 文化の種々相
- (1)伝説「山椒太夫」
- (2)俚謡 田植歌 草刈り歌
- 目出歌 子供歌 おじやみ
- 歌 手まり歌 羽根突き歌
- 地つき歌 盆おどり歌
- 杭うち歌 他
- (3)由良を詠じた詩歌
- (4)故事 「由良の戸」
- (5)学校教育
- (6)体育 (7)娯楽
- (8)公民館と社会教育
- (9)新聞と雑誌
- (10)代表的な人間像
- (11)古文書抄録 (12)雑纂
- 補遺第一巻
- (1)鬼国先生言行録
- (2)駆豎齊家訓
- (3)涼庭先生の経国策
- (4)文化的偉物

- (5)名医新宮涼庭
- (6)破れ家のつづくり話
- (7)西遊日記 (8)但泉紀行

以上

膨大な資料の中には、目次だけで本文が全く無い部分や、伝説「山椒太夫」のように森鷗外の小説そのままの箇所もあり、とかくの批判もあるが、由良にとって貴重な資料である。今後有効な活用法を考えたい。

矢田氏から聞いた新宮涼庭顕彰会事務局長としての活躍ぶりは、文書に記された涼庭が藩財政の立て直しに尽力したり、貸金が返済されないままの盛岡南部藩、越前藩、鯖江藩、綾部藩、出石藩、津藩、藩藤堂家などの子孫を訪ねて、顕彰碑建立のための寄付を求めて歩かれた。又、当時の日本医師会長、武見太郎氏に碑文の拜毫を依頼にされた。そのこつは、みすぼらしい格好では駄目、黒の礼服で身を固め高級外車のハイヤーで堂々と乗りつけるのだそうだ。後は得意の弁舌が物をいったのだろう。と

にかく資金はすべて矢田氏が集められた。

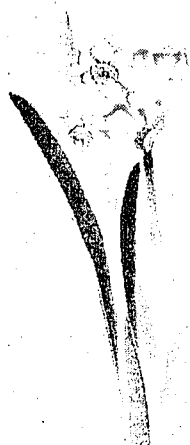
京都で開業二十年、功成り名遂げた涼庭は、一八三九年に南禅寺畔に順正書院を建設し、子弟の医学教育と当時の文人墨客の交流に大いに貢献した。これらの涼庭の活躍が京都療病院―京都府立医大へと発展した。

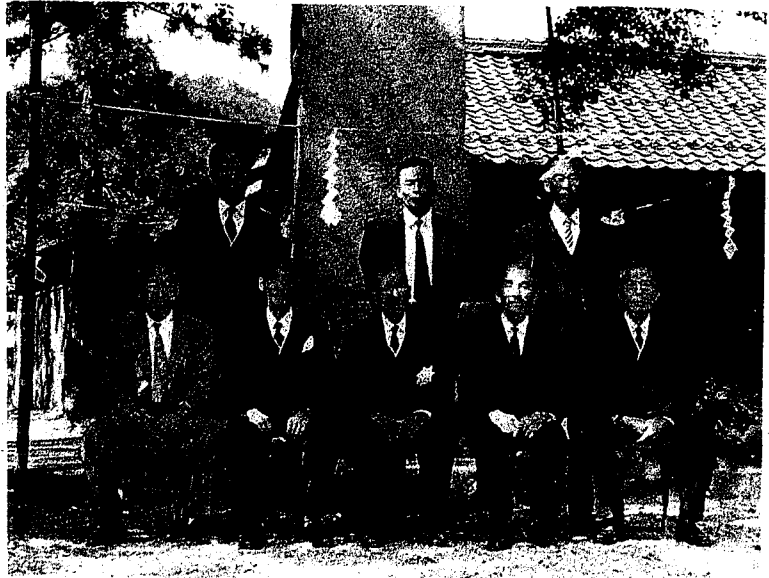
順正書院の庭に昭和三年、曾孫涼男が建てた涼庭読書の胸像があった。料亭「順正」の持ち主、上田氏が矢田梧郎氏の熱意に感服し、この胸像を矢田氏に贈呈された。矢田氏と宮津市との交渉がうまくまとまらず、舞鶴メデイカルセンターへ行ってしまったのは、地元由良として残念であった。

矢田氏を語るのに、由良温泉の開発を忘れてはならない。今でこそ丹後は温泉ブームに沸いているが、四十年前はそうでなかった。山本千秋氏にお借りした京都府鉱泉誌(一九六四)によると「三岡さよ氏等は由良薬師堂付近に昭和二七年より掘削を試みたが固い

岩盤に阻まれ中止、翌年駅裏の畑地を掘削、一八八米で再び岩盤に達したが熱水は得られず放棄。更に翌年手動揚水により鹹水を得、昭和三四年三岡氏と四軒の旅館業者(四方註―駅前二葉屋、まじめ屋、海月楼、千鳥荘)で由良温泉組合を結成し、各旅館へ配管して内湯として利用している」とある。なお山下憲弥氏のお話では、この時の事業主は京都交通の川本直水氏であったとのこと。由良温泉は昨年新たに汐汲苑裏の海岸で掘削に成功し、以前より湧水量も随分豊富で立派に再生した。

この後、矢田氏は昭和四十年末長崎の客舎で逝去された。





昭和三十七年十月九日新宮涼庭顕彰碑除幕式、前列向かって左から榊田福次郎、中西林兵衛、矢田梧郎、山下伊東、川端石之助、後列、四方寿朗、中西孫兵衛、新宮豊の各氏。尚、小室哲寛氏はこの写真のシャッター掛りであったため写っていない。

編集後記

思わぬ大雪に見舞われたこの冬。

季節は春を迎え、新緑が野山を飾り、活気が蘇って参りました。

私達公民館も、新しい年度に向かつて、役員さんと共に運営に勤めて参ります。

行事については、その都度、各地区分館長さんの、区内放送及び、回覧等でお知らせ致します。

どうか本年度も、皆様のご指導ご協力をよろしくお願い致します。

酒田



訂正とお詫び

「公民館だより」一〇九号の記事のなかで次の誤りがありました。訂正いたしますとともに、関係者の方々に深くお詫び申し上げます。17ページ

正 成毛先生
誤 毛利先生

